

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	論 理 学
担当者 資格、役職等	大学准教授	履修年次 及び学期	1年次 前 期
単位数	1 単 位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 この授業は、社会に出た際に求められる「適切で明快な表現」ができる力を養うことを目標とします。「どのように話せばよいか」「どのように書けばよいか」ということに関する基礎的な知識と技能を習得することを目指します。</p> <p>【概要】 主に話すこと、聞くこと、書くことの力を、ロールプレイや実作を通して養成していきます。教員による講義や作文添削以上に、受講者同士の話し合いや相互添削が中心的な活動になります。言語表現のスキルアップと同時に、日本語の特質や魅力も体感できる授業内容となっています。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションー私が付けたい国語の力ー</p> <p>第2回 作文に「盛る」こと、作文から「削る」こと</p> <p>第3回 自分の思いを伝えるためには</p> <p>第4回 「わかりやすい表現」とは何??</p> <p>第5回 伝わる表現・伝わらない表現</p> <p>第6回 「オトナの表現」を目指して</p> <p>第7回 漢字と仮名、どちらが大切??</p> <p>第8回 人を喜ばせる言葉、人を怒らせる言葉</p> <p>第9回 「論理的」とはどういうこと??</p> <p>第10回 言葉で人を動かすためには</p> <p>第11回 素敵な手紙（メール）、書けますか??</p> <p>第12回 「聴くこと」は、なぜ大切なのか??</p> <p>第13回 コミュニケーションと言葉</p> <p>第14回 日本語と外来語</p> <p>第15回 表現力を養っていくためには</p>		
教科書	授業担当者が作成する資料を用いる		
参考書	外山滋比古『日本語の作法』新潮文庫、古郡廷治『あなたの表現はなぜ伝わらないのか』中公新書。その他、授業中に指示する。		
評価の方法	課題レポート、小課題、活動発表・授業への参加姿勢で評価する。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	大学准教授が論理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	基礎分野	授業科目	情報科学
担当者 資格、役職等	高専嘱託教授	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1 単 位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 コンピュータリテラシーを習得し、看護に役立てるための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 情報の概念を理解し、コンピュータでどのように処理されるか学ぶ。また医療においてどのような情報処理システムが導入され、活用されているか学ぶと共に、看護における利用についても理解を深める。さらに実習を通して、自らデータ処理を行う基本的な手法を身に付ける。</p>		
授業計画	<p>第1回 情報とは</p> <p>第2回 情報の表現と処理</p> <p>第3回 コンピュータシステムの構成と動作</p> <p>第4回 コンピュータの利用形態</p> <p>第5回 医療情報システム</p> <p>第6回 病院情報システム</p> <p>第7回 情報に関する倫理とコンピュータセキュリティ</p> <p>第8回 看護情報学</p> <p>第9回 看護におけるコンピュータの利用</p> <p>第10回 パソコンの概要</p> <p>第11回 パソコンの基本操作演習</p> <p>第12回 表計算ソフトの概要</p> <p>第13回 表計算ソフトの演習</p> <p>第14回 インターネットと情報検索</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学 (医学書院)		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験・課題提出 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	情報工学を専門とする高等専門学校嘱託教授が情報科学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	社会学
担当者 資格、役職等	元大学教授	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1 単 位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>看護は人が人をサポートする対人サービスである。これは人間社会における崇高な社会的行為である。また、それは医療機関という組織の中での活動であり、少人数のチームによる活動である。したがってその少人数の人間関係が常に円滑に維持されることが重要である。</p> <p>そうしたことから、看護に携わる者にとっては、社会全体の仕組みを知りつつ、身近な人間関係を適切に作り上げるためには、人間関係の成り立ちを深く理解する能力が求められる。</p> <p>そこで、社会学が追究してきた課題をたどりつつ、家族や地域社会の課題に沿って、今日的な社会問題を取り上げ、その中の人間関係の在り様を考える。</p>		
授業計画	<p>(1) 社会学の成立と人間関係論</p> <p>(2) 家族と家制度</p> <p>(3) イエとムラの議論</p> <p>(4) 戦後社会の課題</p> <p>(5) 家業と職業</p> <p>(6) 産業革命のもたらしたもの</p> <p>(7) 地域社会の変容と課題 ①</p> <p>(8) 同 ②</p> <p>(9) 地域社会と環境問題 ①</p> <p>(10) 同 ②</p> <p>(11) 沖縄の社会と文化 ①</p> <p>(12) 同 ②</p> <p>(13) 同 ③</p> <p>(14) 戦後と復帰後の沖縄</p> <p>(15) 筆記試験</p>		
教科書	特に指定しない		
参考書	適宜資料紹介する		
評価の方法	レポートについては別途指示。 60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元大学教授が社会学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	心理学
担当者 資格、役職等	臨床心理士	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 人間の心や行動様式を理解し、患者や家族、同僚等との信頼関係を構築するための基盤知識の習得を図る。</p> <p>【概要】 心理学の基礎的知識を講義、演習を通して身につける。さらに、これらの知識を看護場面づけて学ぶことにより、対人援助に携わる者として自己理解、他者理解をどのように深めたらよいかを実践的に学習する。</p>		
授業計画	<p>第1回 心とは、心理学の歴史 心理学の基礎知識</p> <p>第2回 知覚</p> <p>第3回 記憶</p> <p>第4回 思考：概念形成</p> <p>第5回 発達：乳幼児期から青年期</p> <p>第6回 発達：成人期から老年期</p> <p>第7回 学習</p> <p>第8回 言語・コミュニケーション</p> <p>第9回 対人認知 人格へのアプローチ</p> <p>第10回 人格：知能・性格理論</p> <p>第11回 人格：心理検査</p> <p>第12回 防御規制・ストレスマネジメント</p> <p>第13回 カウンセリングの基礎・傾聴</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	新体系看護学全書 基礎科目 心理学		
参考書			
評価の方法	始講時説明。 60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	臨床心理士が心理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	英語I
担当者 資格、役職等	英会話講師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1 単 位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】日常生活や看護場面での英語を教材として、基本的な表現を身に着け、同時に異文化への理解を深める</p> <p>【概要】簡単な英文を読んだり、看護場面の英会話をペアやグループなどの対話形態で練習し、しっかりと英語を発話できるようにする。</p>		
授業計画	<p>第1回 自己紹介とあいさつ</p> <p>第2回 患者さんへのあいさつ</p> <p>第3回 体の部位と症状の表現</p> <p>第4回 受診手続き</p> <p>第5回 病室と入院手続き</p> <p>第6回 計測と数字</p> <p>第7回 院内の職業と案内</p> <p>第8回 日常看護</p> <p>第9回 日常活動動作と指示表現</p> <p>第10回 病歴</p> <p>第11回 治療と処置の表現</p> <p>第12回 薬の種類と服用の表現</p> <p>第13回 間違いやすい英語の表現のまとめ</p> <p>第14回 会話の作成</p> <p>第15回 テスト</p>		
教科書	ロッタとハナの楽しい基本看護英語 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	英会話講師が英語について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	演習
分野	基礎分野	授業科目	保健体育 I
担当者 資格、役職等	元中学校体育教師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1 単 位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 健康生活を支える運動意識の意義と実施方法を理解し、自己の体力増進・健康管理に役立てる。</p> <p>【概要】 運動の意義や役割また効果について実技を通して学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の体力や役割の実態を把握し、体力増進の方法を身につけて自己の健康は自分で守り、高められるようにする。 ・ 運動の楽しさを味わう。 		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、身体ほぐし、運動の意義と役割</p> <p>第2回 体力とは、体力の測定と判定</p> <p>第3回 体力測定結果とその生かし方</p> <p>第4回 マレットゴルフ</p> <p>第5回 マレットゴルフ</p> <p>第6回 ジョギングとソフトバレーの実技</p> <p>第7回 同上</p> <p>第8回 同上</p> <p>第9回 同上</p> <p>第10回 エアロビクスと卓球（ラージボール）の実技</p> <p>第11回 同上</p> <p>第12回 同上</p> <p>第13回 ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、マレットゴルフ等）の実技</p> <p>第14回 同上</p> <p>第15回 評価テスト</p>		
教科書	<p>〈用具〉 ラジカセ、ボール(バレーボール、ソフトボール各10ケ、ラージボール2ダース)卓球ラケット10ケ、スティック、マレットゴルフボール10組</p> <p>ストップウォッチ2ケ、握力計1、背筋力計1、ものさし（1m）4本</p>		
参考書	不要		
評価の方法	授業参加態度、技能面の観察、知識理解面のペーパーテスト 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元中学校体育教師が体育について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	演習
分野	基礎分野	授業科目	音 楽
担当者 資格、役職等	元大学教授 元短期大学講師	履修年次 及び学期	1年次 前 期
単位数	1 単 位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 歌うことを通して音楽の魅力を理解するとともに、言葉や音楽についての感性を磨き、表現力を身につける。</p> <p>【概要】 姿勢、呼吸、発語（子音・母音）、発声（喉頭の調節・共鳴腔の設定）等を、音声生理や音楽心理に基づいて学びつつ、明治以来のわが国の唱歌の歴史を実践的に体験し、老人から幼児までの多様な音楽志向を、更に豊かなものにするための方策を考える力を養う。</p>		
授業計画	<p>第1回 琴歌や雅楽に基づく作品 「さくらさくら」「君が代」「いろは歌」</p> <p>第2回 外来の歌曲と瀧廉太郎の作品 「菊（庭の千草）」「埴生の宿」「荒城の月」「花」</p> <p>第3回 言文一致運動と文部省唱歌 「うさぎとかめ」「桃太郎」「春の小川」「夕焼小焼」</p> <p>第4回 大衆の歌謡を開拓した中山晋平 「カチューシャの唄」「ゴンドラの唄」「てるてる坊主」 「証城寺の狸囃子」「中野小唄」</p> <p>第5回 賛美歌と子守唄 「きよしこの夜」「アメイジング・グレイス」 「江戸子守唄」「シューベルトの子守唄」「揺籃のうた」</p> <p>第6回 日本の抒情歌と世界の民謡 「雪の降る町を」「平城山」 「サンタ・ルチア」「野薔薇」「夢路より」</p> <p>第7回 戦後の新しい子どもの歌とフォークソング 「いぬのおまわりさん」「北風小僧の寒太郎」 「花はどこへいった」「翼をください」「あの素晴らしい愛をもう一度」「切手のないおくりもの」</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	伴奏付 こどものうた 印刷教材		
参考書			
評価の方法	出席率、受講アンケートの提出、唱歌の実技 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元大学教授と短期大学講師が音楽について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学 I
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1 単 位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 看護の対象である人間の身体の正常な構造と機能、その維持の仕組みを理解する。</p> <p>【概要】 人体の概要と栄養の消化と吸収について学び、人間の生命現象を理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回 人体の構造と機能を学ぶために 第2回 人体とは・細胞の構造 第3回 細胞を構成する物質とエネルギーの生成 第4回 細胞膜の構造と機能、増殖と染色体 第5回 分化した細胞が作る組織 第6回 構造からみた人体 第7回 機能からみた人体 第8回 口・咽頭・食道の構造と機能 第9回 口・咽頭・食道の構造と機能 第10回 腹部消化管の構造と機能 第11回 腹部消化管の構造と機能 第12回 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 第13回 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 第14回 腹膜 第15回 試験</p>		
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院 NURSING GRAPHICUS 解剖生理学 人体の構造と機能 メディカ出版</p>		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度・筆記試験 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>消化器外科医師が解剖生理学について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師・医師 医師・医師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】看護の対象である人間の身体の正常な構造と機能、その維持の仕組みを理解する。</p> <p>【概要】呼吸器と循環器の構造とそのはたらき、血液の組成と機能、腎臓と排泄路の構造と尿生成と体液の調節について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 呼吸器の構造としての上気道、下気道、肺、胸膜、縦隔の構造について学ぶ。</p> <p>第2回 気道と肺胞の機能、呼吸のメカニズム、呼吸器量について学ぶ。</p> <p>第3回 ガス交換、肺の循環と血流、呼吸運動の調節などについて学ぶ。</p> <p>第4回 血液の組成と機能、特に赤血球の構造、新生、破壊などについて学ぶ。</p> <p>第5回 白血球、血小板、血液の凝固と繊維素溶解、血液型などについて学ぶ。</p> <p>第6回 心臓の構造、心臓の神経と血管について学ぶ。</p> <p>第7回 心臓の拍出機能の理解のため心電図と刺激伝道系の関係について学ぶ。</p> <p>第8回 心臓の拍出機能の理解のため、心臓の収縮について、心拍出量と血圧、心周期、心臓の圧-容積関係などについて学ぶ。</p> <p>第9回 末梢循環系の構造として血管の構造、全身の動脈および静脈について学ぶ。</p> <p>第10回 血管の循環とその調節の理解のため、血圧、血液の循環、血圧・血液量の調節、微小循環について学ぶ。</p> <p>第11回 微小循環、循環器系の病態生理、リンパ管の構造とリンパの循環について学ぶ。</p> <p>第12回 腎臓の構造、尿生成のメカニズムについて学ぶ。</p> <p>第13回 クリアランスと糸球体濾過量、腎臓から分泌される生理活性物質、排泄路の構造、尿の貯蔵と排尿について学ぶ。</p> <p>第14回 体液の調節としての水の出納、酸塩基平衡、脱水、電解質の異常について学ぶ。</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院</p> <p>NURSING GRAPHICUS 解剖生理学 人体の構造と機能 メディカ出版</p>		
参考書			
評価の方法	<p>筆記試験 60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>総合診療科（内科）医師及び循環器内科医師、泌尿器科医師（2名）が解剖生理学について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅲ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位 (自律神経・内分泌と合わせて)	時間数	16/30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 看護の対象である人における、仕組みと機能を学ぶ。</p> <p>【概要】 体を支持し運動できる仕組みは何か、人体を構成する骨と筋肉にはどんなものがあるか、筋肉の種類について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>*身体を支持し運動できる仕組み（人体を構成する骨と筋肉）</p> <p>第1回 骨格とは 第2回 骨の連結－関節 第3回 骨格筋 第4回 体幹の構造と動き 第5回 上肢の構造と動き 第6回 下肢の構造と動き 第7回 頭頸部の構造と動き 第8回 筋の収縮－心筋・平滑筋</p>		
教科書	<p>主テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院 サブテキスト：NURSING GRAPHICUS 解剖生理学 人体の構造と機能 メディカ出版</p>		
参考書			
評価の方法	<p>出欠、授業参加態度、提出課題</p> <p>筆記試験（自律神経・内分泌と合わせて評価する）配点：50点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	整形外科医師が解剖生理学（人体を構成する骨と筋肉）について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅲ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位 (骨・筋と合わせて)	時間数	12/30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 看護の対象である人における、仕組みと機能を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>1. 内臓機能を調節する自律神経および内分泌とは何か、内分泌臓器の種類と働きの違い</p>		
授業計画	<p>*内臓機能を調整する自律神経及び内分泌</p> <p>第1回 自律神経について 第2回 内分泌について 第3回 視床下部一下垂体 第4回 甲状腺と上皮小体 第5回 膵臓と副腎 第6回 性腺・その他の内分泌</p>		
教科書	<p>主テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院 サブテキスト：NURSING GRAPHICUS 解剖生理学 人体の構造と機能 メディカ出版</p>		
参考書			
評価の方法	<p>出欠、授業参加態度、提出課題 筆記試験（骨・筋肉と合わせて評価する）配点：50点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	麻酔科医師が解剖生理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学IV
担当者 資格、役職等	医師 医師・医師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 臨床の基礎となる解剖生理を理解し、疾患の理解に役立てるようにする。</p> <p>【概要】</p> <p>「情報の受容と処理」 動物機能として、感覚器によってどの様に情報を収集し、中枢神経を通して 入力された情報が、どのように末梢神経へ広がるかを学ぶ。</p> <p>「外部環境からの防御」 人体をおおう皮膚、外敵を排除する免疫、外気温の変化の調節を学ぶ。</p> <p>「生殖・発生と老化のしくみ」 ヒトという種の保存のしくみと老化について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 成長と老化 第2回 生殖と発生 第3回 神経系の構造と機能 第4回 脊髄と脳 第5回 脊髄神経と脳神経 第6回 脳の高次機能 第7回 運動機能と下行伝導路・感覚機能と上行伝導路 第8回 眼の構造と視覚 第9回 耳の構造と聴覚・平衡覚 第10回 味覚と臭覚 第11回 疼痛 第12回 皮膚の構造と機能 第13回 生体の防御機構 第14回 体温とその調節 第15回 試験</p>		
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院 NURSING GRAPHICUS 解剖生理学 人体の構造と機能 メディカ出版</p>		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度・筆記試験・課題提出 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>耳鼻科医師（2名）及び眼科医師が解剖生理学について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	生化学
担当者 資格、役職等	臨床検査技師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 生体の代謝調節機構やエネルギー産生機構を学習することにより、生命活動の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 生体の構成成分であるタンパク質、核酸（DNA、RNA）、糖質、脂質およびそれらの代謝について学習する。また、ホルモン、酵素、補酵素、ビタミン、電解質などについても学習し、生体の代謝調節機構について理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回 生化学入門、体液の組成とその機能</p> <p>第2回 たんぱく質・アミノ酸とその代謝</p> <p>第3回 糖質（炭水化物）とその代謝</p> <p>第4回 脂質とその代謝</p> <p>第5回 ホルモンの種類と機能</p> <p>第6回 酵素およびビタミンの種類と機能</p> <p>第7回 核酸とその役割</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	ナーシンググラフィカ 臨床生化学		
参考書			
評価の方法	筆記試験・授業参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	臨床検査技師が生化学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	栄養学
担当者 資格、役職等	管理栄養士	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】生命活動を営むための各種栄養素の栄養学的意義と食物の消化、吸収、代謝、調節機構を理解し、臨床分野で役立ていく。</p> <p>【概要】生体が発育・成長し生命を維持し、健全な生命活動を営む為に、体外から栄養素を取り入れる必要がある。栄養学では、栄養素の種類と働き、消化・吸収・代謝を学習し臨床栄養、食事療法を学習する。</p>		
授業計画	<p>第1回 栄養学とは</p> <p>第2回 栄養評価</p> <p>第3回 各種栄養素の機能</p> <p>第4回 エネルギー代謝</p> <p>第5回 食品構成</p> <p>第6回 食品の特徴</p> <p>第7回 発育段階と栄養 乳児期、学童・青年期</p> <p>第8回 成人期</p> <p>第9回 老年期、妊娠期</p> <p>第10回 臨床栄養 循環器疾患患者、消化器疾患患者の食事療法</p> <p>第11回 栄養・代謝疾患患者の食事療法</p> <p>第12回 腎臓疾患患者、血液疾患患者の食事療法</p> <p>第13回 周手術期、在宅療養患者の食事療法</p> <p>第14回 食事療法と倫理</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	わかりやすい 栄養学 第3版	HIROKAWA	
参考書			
評価の方法	授業参加度・課題提出・筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	管理栄養士が栄養学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	薬理学 I
担当者 資格、役職等	薬剤師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】薬物の特徴、作用機序、人体への治療効果と副作用および薬物管理について学ぶ。</p> <p>【概要】薬理学とは薬物が生体に及ぼす作用を調べる薬物作用学と、体内での薬物の動きを研究する薬物動態学の両面からアプローチする必要がある。この事から看護師の視点に立った薬物治療の基礎を学んでいく。</p>		
授業計画	<p>第1回 薬物治療の目ざすもの：病気の治療、基本的性質、使用目的、 薬物療法に重要な看護師の役割</p> <p>第2回 薬はどのように作用するのか：薬理作用の基本形式、治療域と 作用点、投与経路</p> <p>第3回 薬はどのように体内をめぐるのか：吸収、分布、代謝、 排泄、生物学的半減期、薬物血中濃度</p> <p>第4回 薬物に影響する因子（Ⅰ）：年齢、薬理遺伝的形質、 薬物アレルギー</p> <p>第5回 薬物に影響する因子（Ⅱ）：薬剤耐性・依存、薬物相互作用</p> <p>第6回 薬物中毒はなぜおこるのか：背景、有益性と有害性、実例</p> <p>第7回 薬の管理と新薬の誕生：管理に注意を要する薬物、新薬の開発 医薬品情報の入手</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	わかりやすい 薬理学 HIROKAWA		
参考書			
評価の方法	授業参加度・レポート提出・筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	薬剤師が薬理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	微生物学
担当者 資格、役職等	臨床検査技師	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】感染症の原因となる病原微生物を理解し、看護に必要な知識を習得する。(1)病原微生物の種類と特徴を理解する。(2)感染の成立における宿主側の抵抗性と微生物側の病原性の関係を理解する。(3)感染予防と治療に関する基礎知識を習得する。</p> <p>【概要】医療従事者として必要な微生物学、感染症学、感染予防学の概説をおこなう。</p>		
授業計画	<p>第1回 微生物種類と特徴</p> <p>第2回 細菌の性質（形態と構造）</p> <p>第3回 細菌の性質（増殖と分類）</p> <p>第4回 真菌、原虫の性質</p> <p>第5回 ウイルスの性質</p> <p>第6回 感染と感染症</p> <p>第7回 感染防御機構と免疫</p> <p>第8回 感染症の予防とコントロール （診断、滅菌・消毒、治療、予防接種）</p> <p>第9回 感染症の現状と対策</p> <p>第10回 病原微生物（グラム陽性菌）</p> <p>第11回 病原微生物（グラム陰性菌）</p> <p>第12回 病原微生物（抗酸菌、嫌気性菌）</p> <p>第13回 病原微生物（マイコプラズマ、リケッチア、真菌、原虫）</p> <p>第14回 病原微生物（ウイルス）</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(4)微生物学 医学書院		
参考書			
評価の方法	出席状況及び筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	臨床検査技師が微生物学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学 I
担当者 資格、役職等	医師・医師 医師・医師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 病理的状態の患者の身体に生じている生理機能の異常のしくみを理解する。(病態生理)</p> <p>【概要】 生体の形態や生理的機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされる。病態学 I は病理的状態が引き起こされた患者の身体に生じている生理機能の異常の仕組みである病態生理を学ぶことである。病態生理を学ぶことで、損なわれた患者の生理機能を回復したり、失われた機能を補ったりするにはどうすればいいかを知り、治療や援助につなげるための根拠を知ることができる。</p>		
授業計画	<p>1. 循環のしくみの異常</p> <p>1) 循環障害の基本的な機序 (病態生理)</p> <p>2) 循環器の正常性の破綻</p> <p>2. 消化・吸収のしくみの異常</p> <p>1) 腫瘍の発生の基本的な機序 (病態生理)</p> <p>2) 消化管の機能の正常性の破綻</p> <p>3) 炎症発生の基本的な機序 (病態生理)</p> <p>4) 栄養代謝障害の基本的な機序 (病態生理)</p> <p>5) 肝臓の機能の正常性の破綻</p> <p>3. 生殖のしくみの異常</p> <p>1) 女性の生殖機能の正常性の破綻</p> <p>自己学習 (復習・まとめ)</p> <p>試験</p>		
教科書	医学書院 病態生理学 病理学		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度・筆記試験</p> <p>配点：各講師25点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	循環器内科医師及び内科医師、消化器内科医師、産婦人科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	循環器分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 消化器疾患の専門基礎知識を学習し、看護を実践するための基礎を養う。</p> <p>【概要】 消化器の基本構造と機能を学習し、消化器症状を理解する。また、主要な消化器系疾患の病態を理解することで、各種疾患の症状・検査・治療などの理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 消化器の構造と機能 第2回 症状・徴候とその病態生理 第3回 検査と治療・処置 第4回 疾患の理解 ①口腔・食道・胃・十二指腸疾患 第5回 疾患の理解 ②腸および腹膜疾患 第6回 疾患の理解 ③肝臓・胆道疾患 第7回 疾患の理解 ④膵臓疾患および急性腹症（および消化器疾患のまとめ） 第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	筆記試験・授業参加度・授業参加態度 配点：50点 循環器分野とあわせて評価し、合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	消化器内科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	消化器分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 循環器疾患における病態生理・検査・治療について理解を深める。</p> <p>【概要】 循環器系の疾患について学び、専門性の高いこれらの領域における看護に対応できるように、病態、検査、治療に対する理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 循環器系のしくみと働き</p> <p>第2回 循環器系の主な症状</p> <p>第3回 循環器系疾患の検査</p> <p>第4回 循環器系疾患の病態と治療①</p> <p>第5回 循環器系疾患の病態と治療②</p> <p>第6回 循環器系疾患の病態と治療③</p> <p>第7回 循環器系疾患の病態と治療④</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度・筆記試験</p> <p>配点：50点 消化器分野とあわせて評価し、合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	循環器内科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅲ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	血液分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 内分泌代謝疾患の病態を理解し、その治療看護を修得する。</p> <p>【概要】 (下記)</p>		
授業計画	<p>第1回 内分泌・代謝疾患の看護 第2回 内分泌・代謝疾患の構造と機能 第3回 内分泌・代謝疾患の症状、病態生理 第4回 内分泌・代謝疾患の検査 第5回 内分泌疾患の理解 第6回 代謝疾患の理解 第7回 内分泌疾患の看護 第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 内分泌／栄養・代謝 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	筆記試験・授業参加度・授業参加態度 (血液分野とあわせて評価する) 配点：50点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	腎・内分泌内科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅲ
担当者 資格、役職等	医師・医師 医師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	内分泌代謝分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】専門的看護援助の理論としての疾患別の病態生理、臨床像、治療について学ぶ。この授業では血液疾患に照準をあて解説する。</p> <p>【概要】専門的看護援助の基礎的知識として、疾患からみた病態を把握することを目的とし、主に成人疾患を対象とした疾患別の病態生理、臨床像、治療についての理論を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 総論①血液の生理と造血のしくみ</p> <p>第2回 総論②血液疾患の検査と治療・処置の概要</p> <p>第3回 各論①赤血球系の疾患</p> <p>第4回 各論②白血球系の疾患 その1</p> <p>第5回 各論③白血球系の疾患 その2</p> <p>第6回 各論④リンパ・網内系の疾患、異常タンパク血症</p> <p>第7回 各論⑤出血性疾患</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 メヂカルフレンド社		
参考書	詳細は別途プリントで配布		
評価の方法	出席状況 筆記試験 (内分泌代謝分野とあわせて評価する) 配点：50点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	血液内科医師（3名）が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学IV
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	免疫・アレルギー分野と合わせて1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>呼吸器疾患における病態生理・検査・治療について理解を深める。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸器系の構造と役割について学ぶ。 ・ 臨床で一般的に行われる検査・処置・治療について理解する。 ・ 呼吸器疾患の基礎的な知識を学習する。 		
授業計画	<p>第1回 呼吸器系の構造と機能</p> <p>第2回 呼吸器疾患の症状とその病態生理</p> <p>第3回 呼吸器疾患の検査</p> <p>第4回 呼吸器疾患の治療処置</p> <p>第5回 呼吸器疾患の理解①</p> <p>第6回 呼吸器疾患の理解②</p> <p>第7回 呼吸器疾患の理解③</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度・筆記試験・課題提出（免疫・アレルギー分野とあわせて評価する） 配点：50点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	呼吸器内科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学IV
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	呼吸器分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>免疫・アレルギー系疾患における病態生理・検査・治療について理解を深める。</p> <p>【概要】</p> <p>「生態防御」役割を担う免疫の仕組みと働き、アレルギーの症状について学び、更に膠原病を含めた免疫・アレルギー系疾患の病態と治療について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 免疫のしくみと働き</p> <p>第2回 アレルギーの主な症状</p> <p>第3回 免疫系疾患の主な症状</p> <p>第4回 免疫・アレルギー疾患の検査</p> <p>第5回 免疫・アレルギー疾患の病態と治療 (アレルギーの疾患・気管支喘息)</p> <p>第6回 免疫・アレルギー疾患の病態と治療 (膠原病)</p> <p>第7回 免疫・アレルギー疾患の病態と治療 (膠原病)</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	<p>専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 感染症／アレルギー・免疫／膠原病 メヂカルフレンド社</p>		
参考書	<p>好きになる免疫学 講談社サイエンティフィク</p>		
評価の方法	<p>授業参加度・筆記試験（呼吸器分野とあわせて評価する） 配点：50点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>皮膚科医師が病態学について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	社会福祉 I
担当者 資格、役職等	社会福祉士	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】社会福祉の意義、動向を学び、社会保障制度の実際について理解する。また社会保障と看護との関連についても理解する。</p> <p>【概要】社会福祉の基本的な考え方を理解した上で、社会保障制度の実際を、医療保険、介護保険を中心に体系的に学び、具体的な保障内容を知る。</p>		
授業計画	<p>第1回 社会福祉の概念</p> <p>第2回 社会保障とは</p> <p>第3回 社会保障制度の実際 医療保険制度</p> <p>第4回 " 老人保健制度、公費負担医療制度</p> <p>第5回 " 保険医療制度、医療供給体制</p> <p>第6回 " 介護保険制度</p> <p>第7回 " 年金保険制度、労働保険制度</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 (3) 社会福祉 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度、筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	社会福祉士が社会福祉について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	総合医療論
担当者 資格、役職等	副学校長（看護職） （臨床経験22年）	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】医療及び看護に関する総合的な問題を知り、幅広い視野でこれからの展望とあり方について考えることができる。</p> <p>【概要】医療・看護の問題をより深く理解するために、病と健康に関する多くの学問が相互につながっていること、生物学的医学は実は医学の一部にすぎないことを強調し、保健・医療の実践の場で問われている基本的な問題を取り上げ、幅広い視野で自分の頭で考える習慣をつけるための導入とする。</p>		
授業計画	<p>第1回 医療と看護の原点</p> <p>第2回 医療の歩みと医療観の変遷</p> <p>第3回 私たちの生活と医療</p> <p>第4回 技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題</p> <p>第5回 成熟する社会と人々の意識改革</p> <p>第6回 医療を見つめなおす新しい視点</p> <p>第7回 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 現代医療論 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度・筆記試験・レポート 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験や管理職経験を持つ副学校長（看護職）が総合医療論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野 I	授業科目	看護学概論
担当者 資格、役職等	教務主任 (臨床経験14年)	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】看護学全般的に共通する基本的原理と看護の理念及び社会的使命（役割）について学ぶ。</p> <p>【概要】看護の基本となる概念を理解し、看護について学ぶことの興味を高めていく。また、「看護とは」を探求する姿勢を養い、その後の看護学の学習へとつなげていく。本授業全般をとおして専門職として行う「看護」について考える機会とする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の体系 2. 看護とは何か 3. 看護とは何か さまざまな定義から 4. 看護とは何か 事例から 5. 看護実践のための看護理論 6. 看護実践のための看護理論 (看護理論の概観) 7. 看護実践のための看護理論 (ヘンダーソンの看護理論) 8. 健康の概念 9. 健康に影響する環境 10. 専門職としての看護師 11. 看護における倫理 12. 看護活動の場 13. 看護活動の場 (市民病院見学の学びから) 14. これからの看護の見通しと看護教育 15. 試験 		
教科書	ナーシングス・グラフィカ 基礎看護学 看護学概論		
参考書	看護の基本となるもの (日本看護協会) ナイチンゲール 看護覚え書き 現代社		
評価の方法	筆記試験 授業参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師や養護教諭の資格を持ち、病院等での臨床経験がある専任教員が看護学概論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	基礎看護学援助論 I
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験16年） 専任教員（臨床経験22年）	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 あらゆる対象、場、健康段階の人々への看護を実践するために必要な共通の基本技術を習得する。</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校の考える望ましい看護師像を踏まえた上で人間尊重に基づいた技術のあり方と看護技術の基盤を学ぶ。 2. 看護実践に必要な安全・安楽の基礎について学習する。 3. 健康問題を看護の視点から判断し、解決する枠組みである看護過程において必要となるヘルスアセスメントの意義と方法を身体的健康状態、心理・社会的健康状態、セルフケア能力の観点から学ぶ。 		
授業計画	<p>I. 看護技術とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念 2. 専門分野 I における基礎看護学援助論の位置づけとつながり <p>II. 看護技術における安全安楽</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術における安全とは 2. 看護技術における安楽とは 3. 感染予防の技術 4. 感染予防の技術の実際 <p>演習：手洗い・ガウンテクニック・無菌操作</p> <p>III. ヘルスアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントとは 2. ヘルスアセスメントの目的と意義 3. ヘルスアセスメントにおける観察と情報 4. 身体的健康状態のアセスメントの内容と基本 5. 身体計測技術の実際 <p>演習：身体計測</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. バイタルサインとは 6. バイタルサイン測定の方法 7. バイタルサイン測定の実際 <p>演習：腋窩体温の測定 橈骨動脈での脈拍測定 呼吸測定</p> <p>演習： 血圧測定</p>		
教科書	<p>基礎看護学② 基礎看護技術 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メヂカルフレンド社</p>		
参考書	メディックメディア 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術		
評価の方法	筆記試験70点 技術試験20点 授業参加度10点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	基礎看護学援助論Ⅲ
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験12年）	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>自分を大切にし、他者も大切にすることをコミュニケーションの基礎的能力を身につける。看護ケアを行うものとしてのコミュニケーションの基礎的知識を習得する</p> <p>【概要】</p> <p>人は、人との関係の中で生きています。より良い人間関係を築くことは自分を知り、相手を知ることからはじまります。まず、日常生活におけるコミュニケーション能力を身につけ、看護を学ぶ基礎をつくります。その上で、看護における人間関係の知識を深めていきます。</p>		
授業計画	<p>第1回 自分を表現してみよう、相手の表現を受け取ろう。</p> <p>第2回 コミュニケーションってなんだろう？人間関係って？ 看護におけるコミュニケーションの重要性</p> <p>第3回 自分の枠に気づこう。コミュニケーションを阻害するもの</p> <p>第4回 グループワークをしてみよう1</p> <p>第5回 グループワークをしてみよう2 グループワークの意味</p> <p>第6回 相手を尊重することと自分を表現すること1</p> <p>第7回 相手を尊重することと自分を表現すること2 グループダイナミクス</p> <p>第8回 自分を見つめる自分 プロセスレコード 会話を振り返る意味</p> <p>第9回 場に適した言葉のつかいかた 敬語について</p> <p>第10回 看護とカウンセリング</p> <p>第11回 ロールプレイで考えよう1</p> <p>第12回 ロールプレイで考えよう2</p> <p>第13回 闘病生活を支える人間関係 保健医療チームの人間関係 情報共有とコミュニケーション（記録・報告）</p> <p>第14回 家族の人間関係と看護師の関わり</p> <p>第15回 患者と家族を支える人間関係 ソーシャルサポート ネットワーク まとめ</p>		
教科書	系統看護学講座 別巻⑭ 「人間関係論」（医学書院）		
参考書	特にありませんが、新聞・雑誌など興味を持って読みましょう。		
評価の方法	筆記試験 課題レポート 出席と授業参加度(毎回提出物あり) 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	基礎看護学援助論IV-1
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験11年）	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 対象のニーズを理解し、ニーズを充足させるための日常生活の援助技術を習得する。</p> <p>【概要】 対象にとって主な生活環境である療養生活環境について学習する。援助の根拠として生体のメカニズムを捉え、対象者が快適な日常生活を過ごすことができるよう病床の環境を適切に整えるための援助方法について学習する。環境調整に関する看護のあり方について学内演習を通して習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 生活環境とは (講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な人の生活環境 <p>第2回 生活環境と療養環境 (講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養生活の環境を整える意義・目的 ・療養環境のアセスメントと調整 <p>第3回 看護の視点から考える患者のプライバシーの保護 (講義・演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養環境の調整に必要なプライバシー ・療養環境の中の個人空間 <p>第4回 病床環境と環境整備 (演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドの周囲を整える ・リネン類の取り扱い方 ・ベッドメイキングの方法 <p>第5回 一連のベッドメイキング (演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クローズドベッド ・オープンベッド <p>第6回 作業環境の設定方法 (演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臥床患者への環境調整 <p>第7回 病床の環境を整える (演習)</p> <p>第8回 筆記試験</p> <p>注意！) 授業前には事前学習を行い準備する。また、1回ごとの授業の振り返りを行う。(予習・復習)</p>		
教科書	新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考書	メディックメディア 看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術		
評価の方法	筆記試験70点 技術試験20点 授業参加度10点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	基礎看護学援助論IV-2
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験5年）	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>対象のニーズを理解し、ニーズを充足させるための日常生活の援助技術を習得する。</p> <p>【概要】</p> <p>日常生活の援助技術のうちの衣生活と清潔について学ぶ。援助の根拠として生体のメカニズムを捉え、対象が快適で人間らしい生活を送ることができるように、清潔の意義・目的を学ぶとともに、安全で安楽な具体的援助方法、技術について習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 清潔とは 身体の清潔を保つことの意義・目的 清潔のアセスメントの視点</p> <p>第2回 衣生活の基礎知識 衣服の意義 衣生活に関するアセスメントの視点</p> <p>第3回 清潔の援助技術の実際「寝衣交換」「全身清拭」（演習）</p> <p>第4・5回 //</p> <p>第6・7回 // 「部分浴」「陰部洗浄」「モーニングケア」</p> <p>第8・9回 // 「寝衣交換」「全身清拭」</p> <p>第10・11回 // 「洗髪」</p> <p>第12・13回 // 「寝衣交換」「全身清拭」</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 筆記試験</p>		
教科書	<p>新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</p>		
参考書	<p>メディックメディア 看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術</p>		
評価の方法	<p>筆記試験70点 技術試験20点 授業参加度10点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	基礎看護学援助論 V-1
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験16年）	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 対象のニーズを理解し、ニーズを充足させるための日常生活の援助技術を習得する。</p> <p>【概要】 日常生活の援助技術のうちの食事と排泄について学ぶ。援助の根拠として生体のメカニズムを捉え、人間らしい生活を援助するにはどうあるべきかを学び、事例を下にその方法をデモンストレーション・学内実習を通して習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 食事 食事とは 健康生活と食事の意義 (講義) 食事に関する身体の機能</p> <p>第2回 " 栄養状態のアセスメント (講義) 体液・電解質のアセスメント</p> <p>第3回 食事行動とは 食事の種類 (講義) 食事に影響を及ぼす因子 食事摂取時の生体メカニズム</p> <p>第4回 食事の援助技術 食事の観察とアセスメント</p> <p>第5回 食事の援助の実際</p> <p>第6回 事例に基づいた援助の実際 (演習)</p> <p>第7回 排泄 排泄とは 排泄のしくみ 排泄の観察とアセスメント</p> <p>第8回 排泄援助の方法 排泄・排便の内容と方法</p> <p>第9回 排泄援助の実際 おむつ・ポータブルトイレの援助</p> <p>第10回 " 便器と尿器の援助 (演習)</p> <p>第11回 事例患者にあった援助の実際 (演習)</p> <p>第12回 排尿障害のある患者の援助 (講義)</p> <p>第13回 排便障害のある患者の援助 (講義)</p> <p>第14回 排便障害に関わる処置の実際 浣腸 (演習)</p> <p>第15回 " 筆記試験</p>		
教科書	<p>基礎看護学② 基礎看護技術 I</p> <p>基礎看護学③ 基礎看護技術 II メヂカルフレンド社</p>		
参考書	メディックメディア 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術		
評価の方法	筆記試験70点 技術試験20点 授業参加度10点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	基礎看護学援助論 V-2
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験8年）	履修年次 及び学期	1年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>対象のニーズを理解し、ニーズを充足させるための日常生活の援助技術を習得する。</p> <p>【概要】</p> <p>安全かつ安楽な動作につながるボディメカニクスを理解し、人間の運動・活動・休息・睡眠のアセスメントと援助技術について学習する。</p> <p>対象者が快適な日常生活を過ごすことができるよう活動と休息に関する看護のあり方を学内演習にて習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 活動・運動とは (講義)</p> <p>活動と休息のバランス</p> <p>第2回 休息・睡眠とは (講義)</p> <p>睡眠の生理</p> <p>休息・睡眠を促す援助</p> <p>第3回 安楽な体位保持 (講義・演習)</p> <p>基本的な体位</p> <p>ボディメカニクス技術</p> <p>第4回 活動と休息の援助 (講義・演習)</p> <p>活動・運動のアセスメント</p> <p>運動機能を維持・回復するための援助</p> <p>第5回 体位変換・安楽な体位保持 (演習)</p> <p>第6回 移動の援助 (演習)</p> <p>ストレッチャーによる移動</p> <p>車椅子による移動</p> <p>第7回 事例に基づいた演習 (演習)</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	<p>新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</p> <p>新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社</p>		
参考書	メディックメディア 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術		
評価の方法	授業参加度、演習参加度、筆記試験により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	基礎看護学援助論VI
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験11年）	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 診療、検査を受ける対象のニーズを理解し、診療の補助技術を習得する。</p> <p>【概要】 診療に伴う援助技術、検査に伴う援助技術、与薬の技術を学習する。教育方法はデモンストレーションを含めた講義と学内実習の二構造とし、看護技術の根拠となる知識を理解したうえで、援助の実際としての学内実習を設定する。</p>		
授業計画	<p>第1回 診療の援助技術 (講義) 診療の意義と種類、診察を受ける患者の心理 診察場面における看護師の役割</p> <p>第2回 与薬に関する援助技術 (講義) 与薬の基礎知識、内用薬、外用薬、注射 内用薬・外用薬と安全</p> <p>第3回 検査時の援助技術 (講義) 検査の意義と種類、検査を受ける患者の心理 検査場面における看護師の役割 検査時の介助方法と検体の取り扱い</p> <p>第4回 採血の援助技術 (演習)</p> <p>第5回 採血の部位、使用物品、静脈穿刺の手順、 採血の手順、検体の取り扱い</p> <p>第6回 注射の援助 技術 (演習)</p> <p>第7回 皮下注射、筋肉内注射</p> <p>第8回 筆記試験</p>		
教科書	新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術II メヂカルフレンド社		
参考書	メディックメディア 看護がみえる vol.1看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2基礎看護技術		
評価の方法	授業参加度、筆記試験により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	基礎看護学援助論Ⅶ
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験16年）	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 科学的根拠に基づく思考過程を学び、対象を統合的に捉え、看護実践するプロセスとその意義、方法を理解することができる。</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における問題解決過程の内容と方法を学ぶ。 2. 事例を用いてアセスメント・看護計画の立案を行い、論理的に物事を考え、判断し、看護実践する過程と展開の実際を学ぶ。 3. グループワークで自分の意見を論理的に述べたり、他者の意見を聞くことを通し看護過程の思考過程を学ぶ。 		
授業計画	<p>第1回 看護過程とは 問題解決思考と看護過程 講義</p> <p>第2回 看護過程の構成要素 アセスメント 講義</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 看護過程の構成要素 看護過程の明確化 講義</p> <p>第5回 看護過程の構成要素 看護計画の立案 講義</p> <p>第6回 看護過程の構成要素 実施と評価 講義</p> <p>第7回～第14回 事例による看護過程の展開</p> <p>① アセスメント 講義/個人ワーク 関連図の作成 個人ワーク/グループワーク</p> <p>② 看護問題の明確化 グループワーク/講義</p> <p>③ 看護計画の立案 グループワーク/講義</p> <p>第15回 筆記試験・まとめ</p>		
教科書	新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社		
参考書	看護過程の解体新書 Gakken		
評価の方法	筆記試験、授業参加、課題の提出、最終課題 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	臨床看護総論
担当者 資格、役職等	教務主任（臨床経験14年）	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 健康障害をもつ人の看護を学ぶ。</p> <p>【概要】 臨床看護総論では、専門基礎分野、専門分野 I の既習の知識を統合し活用して「看護の視点で捉えた機能障害の看護」を学ぶとともに、入学以来培ってきた学習方法をさらに主体的学習へと発展させる。その先には専門分野 II の各看護学概論につながり、そこでは各看護学における特性を反映させた機能障害の看護を教育内容の柱として学ぶ。本校の教育課程では健康障害の看護を学ぶ際、より臨地での思考枠組みに近い形での機能障害別看護を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 臨床看護総論の位置付け 健康障害の対象の心理／病む人の心</p> <p>第2回 健康障害としての機能障害を看護の視点で捉える。</p> <p>第3・4回 経過に基づく患者の看護 急性期・回復期患者の看護/慢性期・終末期患者の看護</p> <p>第5回 症状に応じた看護</p> <p>第6回 治療処置に伴う看護</p> <p>第7回 事例に沿った学習「肺炎という疾患を看護の視点でとらえる。」</p> <p>第8回 //</p> <p>第9～14回 事例に沿った演習</p> <p>① 症状別看護（罨法、酸素療法、酸素ボンベ、口腔内、鼻腔内吸引、気管内加湿）</p> <p>② 治療処置別看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続点滴中の患者の寝衣交換、持続点滴中の観察 ・患者の安楽を促進するためのケア（罨法等身体安楽促進ケア） <ul style="list-style-type: none"> ・患者の精神的安寧を保つための工夫の計画。（リラクゼーション） <p>③ 経過別看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもとに健康段階を判断し、今後を予測する。 <p>第15回 まとめ・試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度 課題評価 筆記試験により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師、養護教諭の資格を持ち、病院等での臨床経験のある教務主任が臨床看護総論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学概論
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験5年）	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 成人期にある対象を理解し、対象が健康な生活を送るための看護を学ぶ。</p> <p>【概要】 成人期である自己を理解し、成人期という発達段階の特徴と成人を取り巻く環境について学ぶ。成人期の特徴については「生涯発達」という観点から学習をすすめ、成人期としての特徴を理解し、成人の一般的生活の特徴を生活習慣の視点から学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 成人期にある人の理解 大人とは</p> <p>第2回 " 各発達段階の特徴</p> <p>第3回 " 各発達段階の特徴</p> <p>第4回 " 成人の生活の場・家族の機能 働き方の多様化</p> <p>第5回 成人期の健康問題 成人期の生活状況・健康実態</p> <p>第6回 " 職業性疾病について</p> <p>第7回 " ストレス・セクシュアリティ</p> <p>第8回 " 生活習慣病について</p> <p>第9回 予防 ヘルスプロモーション 健康日本21</p> <p>第10回 予防活動を有効にするもの 大人の学習・エンパワメント</p> <p>第11回 地域保健について（行政保健師）</p> <p>第12回 産業保健について（産業保健師）</p> <p>第13回 病気があるということ 危機・病みの軌跡・自己効力 セルフケア</p> <p>第14回 " "</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①（医学書院） 国民衛生の動向		
参考書			
評価の方法	授業参加度・課題・レポート・筆記試験により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学概論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野 I	授業科目	老年看護学概論
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験8年）	履修年次 及び学期	1年次 後 期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 高齢者を理解できるように、老いるとはどういうことかを講義や演習等通して学ぶ。その上で、高齢者の看護に必要な基礎的知識を身につける。</p> <p>【概要】 加齢によって起こる身体的変化・心理的变化・社会的変化について学習し、高齢者体験などを通して、老いるとはどういうことかをイメージしていきます。高齢社会について、特に介護保険制度を中心に学習し、高齢者にとっての健康とは何か、健康を維持するために何が必要かを考えていきます。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 「老いる」ということ</p> <p>第 2 回 老年期の理解 加齢変化（グループワーク）</p> <p>第 3 回 高齢者体験（演習）</p> <p>第 4 回 高齢者体験（演習）</p> <p>第 5 回 高齢者体験のまとめ</p> <p>第 6 回 加齢変化（グループワーク）</p> <p>第 7 回 加齢変化（グループワーク）</p> <p>第 8 回 加齢変化（発表）</p> <p>第 9 回 加齢変化（発表）</p> <p>第 10 回 高齢者をとりまく社会制度</p> <p>第 11 回 高齢者をとりまく社会制度</p> <p>第 12 回 高齢者の権利擁護</p> <p>第 13 回 老年看護に活用できる理論 高齢者の生活機能のアセスメント（指標やツールの活用）</p> <p>第 14 回 老年看護のめざすもの</p> <p>第 15 回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 II 老年看護学（医学書院）		
参考書	国民衛生の動向		
評価の方法	筆記試験 授業参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学概論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学概論
担当者 資格、役職等	専任教員（臨床経験22年）	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>母性看護の対象の特徴を理解し、対象が健康な生活を送るための看護の実践を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>母性看護学を学ぶにあたり、母性を「健全な次世代を育成する母性の重要性」「母性・父性の特徴と役割」「生命の尊厳の意義」の視点から学ぶ。</p> <p>晩婚化・少子高齢社会・性行動の低年齢化・性感染症の罹患率増加など母性を取り巻く社会の現状について理解する。その上で母性看護における対象としての女性の一生をパートナーである男性との関係を含め、思春期・成熟期・更年期・老年期の各期において身体的・精神的・社会的特徴から理解する。そして、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点で母性各期の健康問題を知り、母性看護として保健指導について考える。</p> <p>授業を通してこの世に生を受けるという意味について身近に起きている話題から学生自身が生についてとして深く考えられるようにする。</p>		
授業計画	<p>第1回 母性とは 父性とは 親になるとは</p> <p>第2回 母性看護の役割</p> <p>第3回 女性のライフサイクル・ライフコース</p> <p>第4回 母性を取り巻く環境</p> <p>第5回 母子保健動向、少子化対策（グループワーク）</p> <p>第6回 母性看護の対象の理解</p> <p>第7回 〃</p> <p>第8回 女性のライフサイクル各期の特徴と看護：思春期</p> <p>第9回 女性のライフサイクル各期の特徴と看護：成熟期</p> <p>第10回 女性のライフサイクル各期の特徴と看護：更年期・老年期</p> <p>第11回 女性のライフサイクル各期の健康問題と看護</p> <p>第12回 〃 (グループワーク)</p> <p>第13回 〃</p> <p>第14回 母性看護における生命倫理</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①		
参考書	国民衛生の動向		
評価の方法	筆記試験・授業参加度・課題により総合評価 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師、助産師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が母性看護学概論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学概論
担当者 資格、役職等	看護師	履修年次 及び学期	1年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 囚が生まれてから死へ向かう過程における心の発達を理解し、心の健康を維持・増進するために必要な理論と技術を理解する。 2. 精神医療や看護の歴史と現状について理解し、その課題について考えることができる。 3. 精神障がい者への支援と権利擁護について理解する。 4. 精神障がい者の回復を支える医療チームの機能と役割について理解する。 5. 自分自身が対象の環境要因にもなることを理解する。 <p>【概要】</p> <p>誰にもある人の「こころ」のしくみについて、ライフサイクル（人が生まれてから死に向か過程を段階に分けて）の危機と発達を含めながら学習をします。「こころ」をとりまく環境では、家族や育児、教育、地域、労働など、こころに影響を及ぼす環境を取り上げて危機とも関連させながら体系を学びます。</p>		
授業計画	<p>第1回 心を病むということ 精神看護の対象について</p> <p>第2回 精神の健康とは</p> <p>第3回 ストレスと健康の危機</p> <p>第4回 人間の心のはたらきとパーソナリティ；人間の心の諸活動</p> <p>第5回 人間の心のはたらきとパーソナリティ；心のしくみと人格の発達</p> <p>第6回 人間の心のはたらきとパーソナリティ；心のしくみと人格の発達</p> <p>第7回 関係のなかの人間：家族</p> <p>第8回 関係のなかの人間：集団</p> <p>第9回 精神障がいと治療の歴史；西洋と日本</p> <p>第10回 精神障がい者の戦後 病院か地域か DVD グループワーク</p> <p>第11回 精神障がいと文化</p> <p>第12回 精神障がいと法制度；精神看護と法律</p> <p>第13回 精神障がいと法制度；精神科領域に必要な法律と制度 権利擁護</p> <p>第14回 精神科で出会う人々</p> <p>第15回 単位認定試験</p>		
教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学（1）</p> <p>精神看護の展開 精神看護学（2）（医学書院）</p>		
参考書	<p>武井麻子 精神看護学ノート 医学書院</p>		
評価の方法	<p>筆記試験・授業参加度・課題により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>病院での臨床経験をもつ看護師が精神看護学概論について教育する科目</p>		